

絶滅危惧種を救うには？

～モーリシャス島の絶滅種「ドーダー」に学ぶ～

仙台第三高等学校 C-1班

1. 背景

人間は、知らず知らずのうちに生物や生態系から様々な恩恵を受けている。これを「生態系サービス」という。例えば、微生物による水の浄化などもこの一つである。



→絶滅させてしまうと恩恵が受けられなくなってしまう。

2. 目的

絶滅の原因は？
私たちには何ができる？



5. まとめ

「絶滅種や絶滅危惧種を作り出した多くの原因は人間にある。」これはつまり、絶滅危惧種を救うためには、人間が手を加える他に方法はないということだと、私たちは考えた。この成功例として、インドサイがある。(2008年に絶滅危惧種から除外された。)

そこで私たちは、以下の解決方法を提唱する。

○外来種について

例) ・アマミノクロウサギ(絶滅危惧IB種)

・ヤンバルクイナ(絶滅危惧IA種)

解決策) ・外来種についての法律の内容の認知度を上げる

・在来種に強く影響を及ぼしている外来種を捕獲する

・対抗する力の弱い幼体を保護して個体数を維持するとともに、外来種に抵抗する力を持つ個体を育成する

○間接的な影響について

例) イソギンチャクとクマノミ

解決策) ・共生関係の教育の充実化

・環境保護の法律の見直し

・生態系サービスの重要性の認知度を上げる

これらからわかるように、個人の力だけではなく、企業や政府などの団体に訴えかけていくことが重要である。

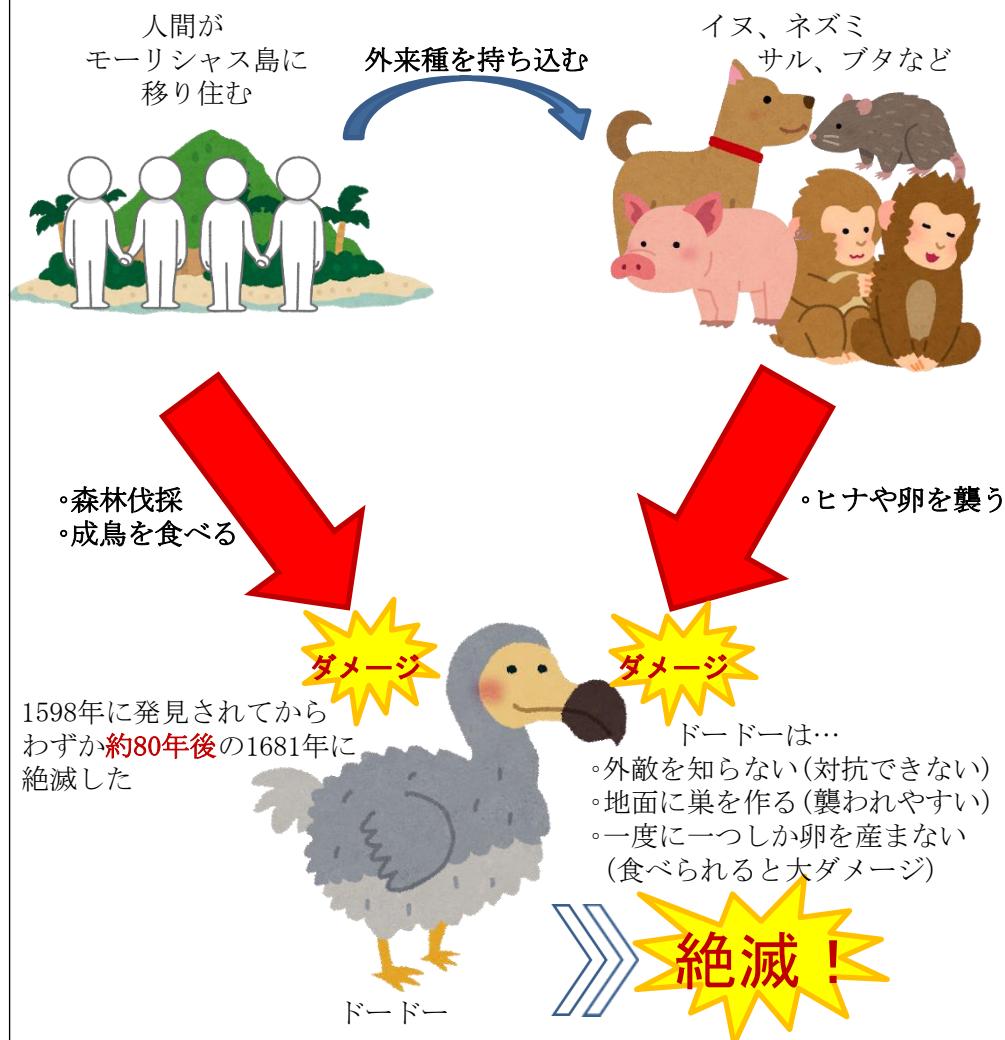
4. 考察

調査結果より、動物の絶滅の直接の原因や、その発端の多くは、人間であることがわかる。タンバラコクのように、直接人間がかかわっていない場合でも、ドーダーを絶滅させてしまったことを通して、間接的に影響を与えているのだ。

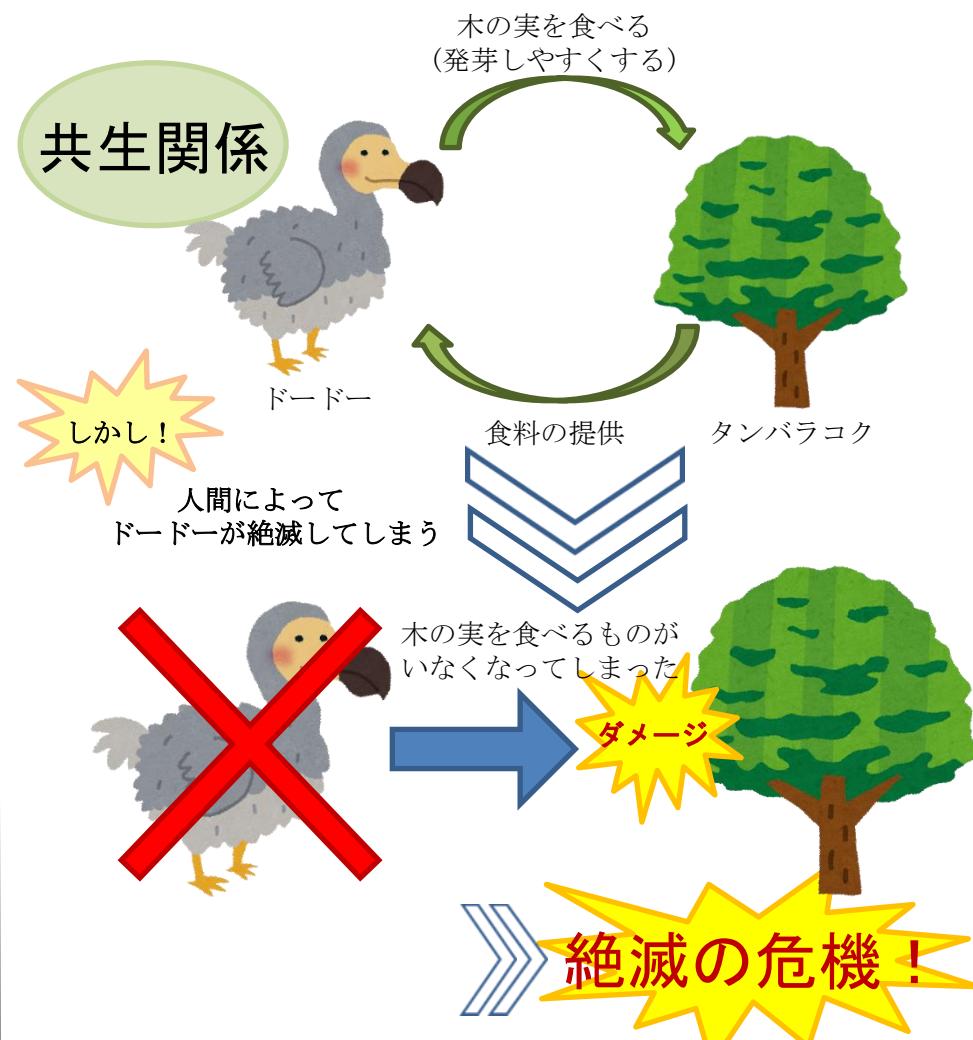
つまり、人間は自らの生活を快適にする、という目的だけで、あとのことを考えずに行動し、結果として、動物の予期せぬ絶滅を招くなど、生態系を壊してしまっているといえる。

3. 調査結果

I) モーリシャス島のドーダー



II) ドーダーとタンバラコク



参考文献

・五十嵐享平/岡部聡/村田真一、『絶滅動物の予言 - 生命誕生「35億年目の悲劇」を読む』, 情報センター出版局, 1992年

・別役実, 『鳥づくし [続] 真説・動物学大系』, 平凡社, 1998年

・BIGLOBEニュース, 絶滅危惧種リストから外された10種の動物たち, https://news.biglobe.ne.jp/animal/0313/kpa_170313_8704846408.html, 参照日2018/10/12

・環境省, 環境省 Ministry of the Environment, <http://www.env.go.jp/>, 参照日2018/9/21